

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年1月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2872201039		
法人名	有限会社ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき加古川		
所在地	(〒675 -0034) 兵庫県加古川市加古川町稲屋890-4 電話 079-454-9575		
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成20年12月12日	評価確定日	平成21年1月18日

【情報提供票より】 [平成20年12月1日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月15日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	13人	(常勤13人) (非常勤0人)	/ 常勤換算13人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上2階建て建物の1階～2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金の有・無	有り (円) ・ 無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (300,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合)保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	150円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	50円
	または、1日あたり			円

(4) 利用者の概要 (平成20年12月1日 現在)

利用者人数	計18名	… (男性4名) (女性14名)	
要介護1	7名	要介護2	4名
要介護3	3名	要介護4	3名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均86歳 … (最低76歳) (最高97歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いのまた循環器内科	いわさき歯科	しょうせ脳神経外科クリニック
---------	-----------	--------	----------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

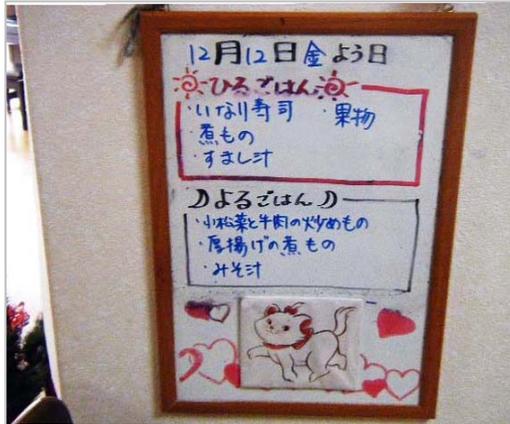
JR「加古川」駅の南、加古川市コミュニティーバス「友南」停留所の前。利用者の個性を重んじ、その人らしさを大切に暮らせるよう支援している。近隣住民をはじめ、小・中学校、高等学校の生徒達と関わる機会を設けるなど、地域交流に力を入れてケアに取り組んでいる。地域行事へも積極的に参加し、また、ホームのイベントには近隣の方々も招待し、日頃から交流を深めている。施設長は「認知症サポーター養成指導者」として、地域住民に向けて認知症ケアの理解浸透にも尽力している。日々のケアの記録に関しても工夫がなされ、利用者一人ひとりの状態が丁寧に書き記されていた。記録内容は正確で、かつ、分かりやすく整理されており(職員皆が情報を共有しやすく)、この点からも利用者に対する深い想いを感じた。◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①介護計画書の様式を整備した。②ケース記録の記入方法を整備中。③介護計画の見直しの際、ホームを訪問する機会の少ない家族について、意見の聴取方法を検討中。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 全職員で自己評価に取り組み、管理者と主任がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議には、概ね2か月に1回開催され、利用者、家族、自治会長、民生委員に加え、地域住民にも参加してもらえるようになった。会議では、ホームの近況報告のほか、地域情報の交換など様々な意見交換が行われている。自治会での勉強会では、認知症について講演するなど地域交流に努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 「ほおずき便り」を毎月発行し、行事案内などのお知らせ、利用者それぞれの様子を写真やコメントで伝えている。相談や苦情については、いつでも…何でも…言いやすい雰囲気作りを、ホームとして心掛けている。家族会は運営推進会議と同日に開催されることが多く(家族も参加しやすく)、意見・要望などの意思疎通が図られている。苦情などの対応については、外部窓口を案内し、法人ホームページでも受け付けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 自治会に加入し、「餅つき」「ふれあい喫茶」「祭り」などの地域行事に積極的に参加し、ホームのイベントにも地域住民に参加してもらっている。また、地域ボランティアが定期的にホームを訪れたり、毎日のホーム周辺の清掃で挨拶を交わすなど、日常生活の中で地域との交流を深めている。

◎食事を楽しむことのできる支援

㊦: 「本日のメニュー」のお知らせボード



㊦: 「いなり寿司」を職員と一緒につくって…



㊦: 利用者の身長にあわせ椅子の高さを変えている



◎役割、楽しみごと、気晴らしの支援

㊦: 日課のラジオ体操

㊦: 古新聞の整理も協働で…



◎運営に関する家族等意見の反映

各々の洗濯物を取り違えないよう個人別のかごを用意



◎職員のストレス軽減に向けた取り組み

職員専用の休憩室を設けている



2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念は「笑みがこぼれる家庭…それがわたしの誇りです。」。事業所目標を「やさしい笑顔、意識の統一、決め事の継続」とし、家庭的な環境の中で地域と共に、自由に暮らすことの支援を行なっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、その人らしい生活の継続が出来るよう支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や地域活動には積極的に参加し、ホームイベントには参加をしてもらったりと、互いの交流が持っている。自治会主催の「認知症について」の勉強会で講師を引き受けたりと、地域への知識還元も積極的である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義の周知はもちろんのこと、職員全員が自己評価を行なうことにより、ホーム全体の資質の向上に努めている。家族にも評価結果を郵送し、運営推進会議でも報告している。前回評価時の改善課題についても、職員間で十分に話し合いを持ち、積極的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民にも参加してもらえるようになり、活発な意見交換がなされている。運営推進会議が、ホームの近況報告や地域との情報交換の場となっている。	○	地域向けの勉強会の要望など、様々な意見が出されており、順次の実現を期待したい。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターの担当者へは、運営推進会議の出席依頼をしているものの、現在に至るまで一度も出席してもらえていない。	○	地域包括センターには、専門知識の還元をはじめ困難事例の相談にもものって頂けるので協力を願うとよい。ホームを拠点に地元の皆さんとの情報交換もできる機会でもあり、地域状況の把握にも繋がるので、出席を依頼し交流してもらいたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「ほおずき便り」を発行し、行事案内や職員の異動などホームのお知らせとともに、利用者各々の様子を写真を同封して伝えている。家族の面会の際には職員が近況を伝えるようにしている。パートナーの紹介ボードを作成し、家族に職員を覚えて頂けるよう工夫している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会の中で、意見や要望を聞く機会を設けている。ホームとしては、いつでも何でも、意見や要望を出しやすい雰囲気作りに努めている。外部窓口の案内や法人のホームページにも意見や要望を受け付ける窓口を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前年度まではユニット間で職員の異動を行っていたが、利用者へのダメージを防ぐ配慮として、ユニット間異動を中止しており、状況に応じた対応を行っている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部では、全体会議、新入社員研修、主任研修、施設長研修、エリア別勉強会などが実施されている。ホーム内では、「研修委員」が年間計画を立て、職員が学びたい内容の勉強会が行なわれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2市2町グループホーム連絡協議会による勉強会が3カ月に1回のペースで開催され、参加している。各ホームで抱える問題などの事例検討を行い、日々の介護の参考にしてしている。施設見学も気軽に行なっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、本人や家族と話し合う機会を十分に設け、困っていること、不安なことを聴き取っている。併設するデイサービスを利用しながら、ホームに慣れてもらい、馴染みながらのサービス利用に活かしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日々利用者と喜怒哀楽を共にしながら、利用者は人生の大先輩であることを念頭に、利用者からも学び、支えあう関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者を中心に、一人ひとりの思いや意向を聴き取り、その把握に努めている。困難な場合は家族にも協力してもらい、本人本位に検討されている。	○	聴き取り方法を工夫し、本人の意向が計画に、より反映できるよう検討してもらいたい。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人や家族等から自宅で生活していた頃の習慣も聴き取った上で計画を作成している。日々の様子は、「個別対応状況表」や「連絡ノート」に精神面・医療面・身体面に分けて細かく記入され、それを用いながら毎月ケース会議を開催している。当日出席出来ない職員には書面で意見を出してもらい、全員で検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には6ヵ月毎に、変化が生じた場合には随時に、必要な関係者と話し合い、計画の見直しを行っている。	○	利用者の細かな状況変化を計画に組み込んでもらいたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスを併設しており、ホームの利用者はデイサービスの行事に参加することもある。地域住民が定期的にボランティアとして訪れたり、パンの移動販売や訪問理美容も利用している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を大切にしているが、受診は家族に協力してもらっている。かかりつけ医をホームの協力病院に変更する場合は、本人や家族の意向を十分に聴き取り対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、事業所は、家族、医師、訪問看護師などの連携をとり、ホームの環境に応じた対応をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者それぞれの性格や行動パターンを把握しており、その人に適した言葉掛けを行なっている。記録などの個人情報の取り扱いは、施錠できる書棚に保管するよう徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの生活パターンを把握しており、職員側の都合を優先せず、それぞれの利用者のペースに合わせた支援が出来るようにしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と一緒に食事をし、調理の準備や片付けも協働で行なっている。日曜日は「自由メニュー」としており、メニューの決定も協働でしている。家庭菜園で収穫した季節野菜や旬の食材を取り入れ季節を感じてもらっている。食事がしやすいように利用者の身長にあわせ椅子の高さを変える工夫もしている。	○	利用者の楽しみの1つである「食事の支援」として、食事の準備の中に食卓にテーブルクロスをかけたり、庭に咲いた季節の一輪花を飾るなどし、家庭の食卓の雰囲気より感じられるよう、さらに工夫してみてもどうか。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が必ず見守りを行い、それぞれの状況に合わせた入浴支援を行なっている。大半は日中の入浴であるが、希望者には夕食後の入浴支援も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの生活歴を把握したうえで、日々の生活の中で役割を持ってもらっている。古新聞や雑誌の整理も手伝ってもらっている。「行事委員会」によって計画された、日帰り旅行などのイベントも豊富に提供されている。日常的にも散歩や喫茶店に出掛け、気晴らしの支援を行なっている。ホーム内の日課としては、嚙下体操やラジオ体操を実施し、体を動かし気分転換をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の掃き掃除… 買い物… 病院へ診察券を出しに行く… 散歩やドライブに出掛ける… など、出来る限り戸外に出掛けられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が利用者の状況を把握すると共に、鍵を掛けることの弊害も理解しており、玄関はチャイムがなる様にしていて、日中の施錠は行っていない。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼夜想定消防避難訓練を行なっている。地域へは、運営推進会議をきっかけに、協力を働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「食事委員」が中心となり、利用者の希望を聴き取りながら、旬の素材を取り入れたメニュー作りに取り組んでいる。食事・水分摂取量ともにチェックしており、利用者のADLに応じた調理の工夫を行ったり、個別のメニュー変更も行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りや庭周辺には花を植え、道行く人にも楽しんでもらえるようにしている。リビングには季節の花やイベント時の写真を飾り、あちこちにソファを置くなどして居心地良く過ごすための工夫をしている。テレビや音楽の音量は適当な大きさに調節され、太陽光にはすだれやカーテンなどで調節するなど、配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度品を持ち込んでもらい、安心して過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。